



制作委員長
北湯口 芳春さん
＝附馬牛町、68歳＝

最後まで楽しくやり切り、 楽しく終わることができた

旗揚げ時から50回目の話が出ていましたが「まずは楽しむこと」とキャストやスタッフに話し、私も含め49回目の公演を楽しむことができました。来年も良いものをみんなで作り、観客の皆さんと感動を分かち合えるファンタジーにしたいです。



ミツ役
鈴木 由佳理さん
＝松崎町、27歳＝

仲間に支えられ演技できた ファンタジーは私の財産

仕事の関係で練習に参加できたのは週に3回。みんなと合わせる時間が短く不安もありましたが、仲間に支えられ演じることができました。ファンタジーは関わる人同士助け合う良さがあり、この出会いは私にとって大切な財産です。



利一役
小野寺 陸さん
＝早瀬町、28歳＝

皆さんに育てられ挑戦する 素晴らしさを教えてくれた

初参加で初主演。知り合いに誘われ参加してみたらびっくりしました。でも、やってみたらすごく楽しい。何も分からない私に周囲は熱心に指導していただき、育ててもらったと感じています。これを機会にいろんなことに挑戦したいです。

ターバレエスタジオも出演。演技に熱が入るキャスト、支え続けたスタッフたちで創り上げた舞台は、感動の渦に包まれました。
演出を担当した小林立栄さん（六日町）は「道具制作や音響など、各部門からアイデアがたくさん出て、みんなで良いものを創れた公演でした。スタッフ、キャストともに楽しみなが舞台上に臨むことができたと思います。市民の皆さんにも楽しんでもらえるよう、また来年頑張りたいです」と次回の意気込みを語りました。
49回目の春を呼んだファンタジーは、来年節目の50回を迎えます。

今作は主人公・ミツと利一の恋模様を描いたストーリー。『遠野物語拾遺』35話に登場する卯子酉神社（下組町）を舞台に、萩野友理恵さん（遠野町）が原案、脚本検討委員会が脚本を手掛けました。願いを書いた紙を神社に自生する葦に結びと男女の恋が成就する。その神社に通う2人に起こる困難を通じ、人と人との縁を表現しました。
舞台は、総勢250人の市民が約5カ月にわたって準備。当日はファンタジー・ミュージック・アンサンブルの生演奏と合唱が物語の世界に引き込み、下組町の郷土芸能団体「同心会」や遠野市民セン

春を呼ぶ市民手作りの舞台、遠野物語ファンタジー。「卯子酉の淵」は2月24・25日の両日、遠野市民センターで公演されました。全3回の公演に1003人が来場。会場は、感動の渦に包まれました。

うねどりの 卯子酉の 淵

第49回市民の舞台 遠野物語ファンタジー



1_互いにいがみ合うミツと利一の父。両家が犬猿の仲であるのは、商いを始めた時期が重なり商売敵であることが原因だった 2_盗賊が利一の家に火を放つところを見つけ叫ぶミツ。その後、盗賊にさらわれてしまい、利一の父に放火の疑いをかけられる 3_祝宴を上げる光太郎とナカ。余興として同心音頭が披露された 4_ナカの結婚を素直に喜べず、冷たく当たってしまったミツ。その様子を見た父は頬を叩き、利一のことはもう忘れろと言い放つ 5_恋を叶えようとする卯子酉様と愛宕様。しかし2人はすれ違ったまま、物語は進んでいく 6_光太郎に取り押さえられた盗賊。犯した罪を白状しミツの疑いが晴れる 7_影で支えた裏方 8_華麗な舞を披露したバレエスタジオのメンバー 9_卯子酉の淵に身を投げ、利一に助けられたミツ。ミツの父は改心し2人の結婚を認めた 10_生演奏・合唱が観客を物語に引き込んだ 11_公演直前、円陣を組むスタッフとキャスト



「一緒に片葉の葦に
結びましょう——。」

恋文を葦に結び、永遠の愛を誓い合った



ミツを助けるために
淵へ飛び込んだ利一
最愛の人を守りたい気持ちが彼を動かす



全ての公演が終わり、最高の笑顔を見せたキャストの皆さん